

患者番号	性別	身長	cm	指示医
カナ氏名	生年月日	体重	kg	
患者氏名	年齢	体表面積	m ²	

Rp) ニボルマブ(オプジーボ) 360mg/body 点滴静注 Day1
 オキサリプラチン 130mg/m² 点滴静注 Day1 3週毎
 TS-1 ※用量は下記参照 内服(1日2回) Day1(夕)~15(朝)

※TS-1用量:体表面積に応じて調整
 <1.25m² 80mg/body /日(20mg 4C 2×)
 1.25~1.5m² 100mg/body /日(25mg 4C 2×)
 1.5m²< 120mg/body /日(20mg 6C 2×)

レジメンコメント1
レジメンコメント2

本管①
生理食塩液 100mL 1 瓶

側管①	インラインフィルター使用 100mLに調製								
30分	<table border="1"> <tr> <td>【mL】生理食塩液 100mL</td> <td>mL</td> </tr> <tr> <td>ニボルマブ</td> <td>mg</td> </tr> <tr> <td><腫>オプジーボ点滴静注240mg</td> <td>:1瓶</td> </tr> <tr> <td><腫>オプジーボ点滴静注120mg</td> <td>:1瓶</td> </tr> </table>	【mL】生理食塩液 100mL	mL	ニボルマブ	mg	<腫>オプジーボ点滴静注240mg	:1瓶	<腫>オプジーボ点滴静注120mg	:1瓶
【mL】生理食塩液 100mL	mL								
ニボルマブ	mg								
<腫>オプジーボ点滴静注240mg	:1瓶								
<腫>オプジーボ点滴静注120mg	:1瓶								

側管②			
30分	<table border="1"> <tr> <td>【50mL】生理食塩液 50</td> <td>1 瓶</td> </tr> </table>	【50mL】生理食塩液 50	1 瓶
【50mL】生理食塩液 50	1 瓶		

側管③									
30分	<table border="1"> <tr> <td>パロフセトロン点滴静注</td> <td>1 袋</td> </tr> <tr> <td>バッグ0.75</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アロカリス点滴静注235m</td> <td>1 瓶</td> </tr> <tr> <td>デカドロン注射液1.65m</td> <td>3 管</td> </tr> </table>	パロフセトロン点滴静注	1 袋	バッグ0.75		アロカリス点滴静注235m	1 瓶	デカドロン注射液1.65m	3 管
パロフセトロン点滴静注	1 袋								
バッグ0.75									
アロカリス点滴静注235m	1 瓶								
デカドロン注射液1.65m	3 管								

側管④									
120分	<table border="1"> <tr> <td>大塚糖液5% 250mL(5%TZ)</td> <td>1 袋</td> </tr> <tr> <td>オキサリプラチン</td> <td>mg</td> </tr> <tr> <td><腫>オキサリプラチン点滴静注液100mg</td> <td></td> </tr> <tr> <td><腫>オキサリプラチン点滴静注液50mg</td> <td></td> </tr> </table>	大塚糖液5% 250mL(5%TZ)	1 袋	オキサリプラチン	mg	<腫>オキサリプラチン点滴静注液100mg		<腫>オキサリプラチン点滴静注液50mg	
大塚糖液5% 250mL(5%TZ)	1 袋								
オキサリプラチン	mg								
<腫>オキサリプラチン点滴静注液100mg									
<腫>オキサリプラチン点滴静注液50mg									

- <注意すべき副作用>
- 過敏症 ●食欲不振、吐き気
 - 手足のしびれ ●口内炎 ●下痢
 - 色素沈着 ●脱毛(頭髪、まつ毛、眉毛など)
 - 白血球減少 ●赤血球減少(貧血)
 - 血小板減少 ●肝機能低下
 - 間質性肺炎 ●大腸炎、重度の下痢
 - 免疫性血小板減少性紫斑病 ●甲状腺機能障害
 - 腎障害 ●脳炎 ●静脈血栓塞栓症
 - 重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横紋筋融解症
 - 1型糖尿病 ●肝機能障害、肝炎、硬化性胆管炎
 - 神経障害 ●副腎障害
 - 重度の皮膚障害 ●Infusion reaction

<実施時の注意点>

漏出時:直ちに投与を中止し、薬剤を吸引、洗浄し、ステロイドの局注、ステロイドの外用剤で対処する。

●オキサリプラチン

アルミニウムとの接触により分解するため、アルミニウムが用いられている機器は使用しないこと。
 本剤投与後数分以内の過敏症状(気管支痙攣、呼吸困難、血圧低下等)が認められた場合には、直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。また回復後は本剤を再投与しないこと。

●ニボルマブ

0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与。
 溶解時に激しく振盪すると凝集体が生成し微粒子が生成する可能性がある。
 希釈後ニボルマブの最終濃度が1.9mg/mL以上となるように調製する。(1.9mg/mL以下の濃度では微粒子を認めたため)